



個別試験 最後まで戦い抜こう！

～最後まで粘る、その姿勢が糧になる～

共通テストが終わって17日。

国公立大希望の生徒の皆さんは、出願先を決めるにあたって、多くの人が迷ったと思います。しかし、迷うのは当然、3年間、頑張ってきたからです。逃げ切りを目指す生徒、逆転を目指す生徒、様々な想いはあると思いますが、**決めたからには、合格に向けて前へ進むのみ**です。

2/1 から、自宅学習期間に入りますが、全員の進路先が決定するまで本校の指導は継続します。勿論、卒業式が終わってもです。伝統的に、本校生は、課外や個人添削指導など、**学校中心の勉強を最後まで継続した人が力をつけて合格してきます**。

この3年間、皆さんがかけた情熱とエネルギーを思い返してみてください。授業、課題、課外、定期考査、外部模試、面談、そして学習と部活動の両立。

ぜひその努力が報われて欲しいと思っています。共通テストの結果で落ち込んでいる生徒も少なくないと思いますが、まだ結果は出ていません。**再度、自分の気持ちを入れ直してください**。結果については、思い通りにならない場合もありますが、**できる限り自分の努力に見合った進路決定**であって欲しいと思っています。

それらの姿勢が、将来の糧になると信じてください。我々も最後まで、並走していきたいと思っています。



国公立大

A判定（ベネッセ・河合塾80%以上）の意味は、A判定の生徒が100人いれば、80人以上は合格するということ、言い方を変えれば、20人は不合格になる可能性があるということになります。A判定、B判定（ベネッセ60% 河合塾65%）でも、個別試験の配点にもよりますが、若干のリードを持ち、二次試験で勝負ということになります。

C判定（ベネッセ40% 河合塾50%）、D判定（ベネッセ40% 河合塾35%）、E判定（ベネッセ・河合塾20%以下）の生徒も、**逆転のチャンスは大いにあります**。個別試験の教科科目が得意であればと良いですが、そうでない場合であっても、これからの期間の頑張りで克服できると考え、行動に移すことが大切です。是非、**2月以降の進路対策特別指導**をペースメーカーに精進して欲しいと思います。過去の本校の先輩方の中にも、逆転合格をした人はたくさんいます。さらに、3月末に、追加合格を得た先輩もいます。

今年の共通テストは、5教科総合の平均点が、昨年と比較して、文系で+5点、理系で+7点と上昇しており、自己採点後の志望動向を見ると、全国的には強気な出願も見られるようです。しかし、旧課程最後の学年であることも合わせて考え、**最終的な志望動向の読み**も大切となっています。

また、中期、後期については、見かけの倍率よりも、実際の受験生徒は少なくなることがほとんどです。今後、発表される**志願倍率の高さを恐れず、最後まで受験を継続して欲しい**と考えています。ただ、家庭の状況にもよりますが、浪人を避けるのであれば、私立大、または他の上級学校との併願を確実にしておくことも大切です。



私立大



各大学とも、推薦・総合型の定員の増加により一般選抜の定員が小さくなってきています。

私立大に限りませんが、保護者の方々の時代と大学の難易度、評価も変わってきています。それを踏まえ、自分が将来やりたいことを見据え、**挑戦校**、**実力相応校**、**安全校**をバランス良く考え、**受験日程**が**タイトになり過ぎない**よう計画することが大切です。また、**受験方式**は、大学ごとに異なっており、自分にとってどの方式が有利なのか判断する姿勢も問われます。その際、共通テスト利用方式だけではなく、**一般選抜の最大定員の方式の受験**を推奨します。

また、2月以降出願できる大学もあるので、必要な場合は、担任の先生に相談してしてください。

進路指導部から3年生の皆さんへのお願い

以下の点について、進路指導部から3年生へのお願いです。

1. 国公立大受験生徒は『受験番号』を担当の先生へ報告してください

国公立大入試では、合格発表後、県教育委員会や新聞社などに本校の合格者数を報告するために、速やかに合否確認をしなければいけません。よって、国公立大受験者は、「受験番号」が判明しだい、必ず担任の先生へ知らせてください。

2. 私立大の『すべての合否結果』を担当の先生へ報告してください

私立大の合否結果が発表されたら、速やかに、すべての「日程」・「方式」の受験結果を担当の先生に報告してください。生徒によっては、同一の大学に、「共通テスト利用方式」と「一般入試〇〇日程」というように、複数の方式で合格している人もいます。また、予定していた受験を取りやめた場合も報告してください。

3. 最終的な『進路先』が確定したら担任の先生へ報告してください

受験結果がすべて出そろい、最終的にどの学校に進学するのかが確定した場合、必ず担任の先生へ報告してください。誰がどこに進路先を決めたのかを「指導要録」に記録して残します。また、進路先の各種の統計データを県教育委員会や文科省等に報告しなければいけません。浪人することを決めた場合も、どの予備校に通うのかを知らせてください。

4. 小論文・実技・面接の『受験報告書』を担当の先生へ提出してください

国公立、私立を問わず、「学校推薦型・総合型選抜」と「一般選抜」で、教科試験以外の「小論文または総合問題」、「実技試験」、「面接試験（グループディスカッション）」が課された生徒は、記憶が確かなうちに、「受験報告書」を作成し、どのような形式、内容の試験だったのか、詳しい情報を提供してください。問題冊子の提供も、可能な場合はお願いします。これは、今後、後輩たちが有効に活用していきます。

5. 受験報告の機会があれば協力してください

今後、1・2年生の進路意識高揚のための進路事業があります。合格体験発表会で話をさせていただく、進路の手引きで合格体験記を執筆していただくなどが考えられます。担任の先生を通して、声がかかった場合は、協力をお願いします。

6. 『2024版の赤本』を進路室に寄贈してください

すべての受験が終了し、自分が購入した「2024版の赤本」が不要になったら、ぜひ、学校に寄贈してください。書き込みがしてあったり、多少痛んだりしていても全く問題ありません。ぜひ、後輩のために協力してください。